

眼科 臨床研修プログラム

GIO

眼科の基本的な臨床能力を身につけ、白内障、緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、ぶどう膜炎、ドライアイなどの、頻度が高く全身との関連もある重要な眼疾患については実際の患者を担当し、眼科における基本的診療を実施できることを目標とする。白内障、緑内障、網膜硝子体の手術についてはその適応と周術期管理を学び、顕微鏡下手術の技能を修得して手術に助手・執刀医として加わり、研修期間と本人の希望に応じてより高度な臨床能力を身につけることを目標とする。

SBOs

1. 眼科疾患の基本的な病態を理解し、患者から必要な病歴が聴取できる。
2. 眼科的検査を行ってその結果を解釈し、基本的な診察手技を実施して必要な眼所見をとることができる。
3. 全身疾患とは異なる眼科疾患の特性、患者の状況や理解度を把握したうえで、適切な態度で診療にあたり病状や予後の説明や治療の提案ができる。
4. 基本的な眼科手術の一部ないし全体を実施できる手技を身につけ、実際の手術を担当する。

LS

1. 指導医の外来診療に同席して学んだのち、上級医の指導のもとで担当患者の外来診療を行う。
2. 手術患者を入院中は指導医・執刀医とともに担当し、手術から術後診察まで一連の入院治療を行う。
3. 科内のカンファレンスで、担当した症例や興味のあるテーマについてプレゼンテーションする。
4. 選択した研修期間やモチベーションと能力に応じて、希望すればより高度な診療手技の能力を身につけ、基本的な手術を自分で執刀し、学会報告や論文作成を行う。

研修評価

指導医による EPOC を利用した評価